



# 科学の眼

まなこ

発行:姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話:079-267-3961)  
<http://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

## 生物シリーズ

シラサギという名の鳥はいるのかな？

### サギの仲間たち

姫路科学館 専門員 三谷康則

天下の名城姫路城は1993年12月、法隆寺とともに日本で初の世界文化遺産に指定されました。姫路城は白く美しい白壁が天を舞うシラサギのように見えるので、別名「白鷺城」とも呼ばれています。

さて、鳥の世界では「シラサギ」という名の鳥はいるのでしょうか。残念ながら、日本には「シラサギ」という名の鳥はいないのです。それでは「シラサギ」とはどのような鳥をいうのでしょうか。

「シラサギ」という名は、コサギ、チュウサギ、ダイサギなど白いサギの仲間を称して使われています。今回は「シラサギ」の仲間をご紹介します。

#### ■ コサギ

コサギ(写真1)は「シラサギ」の仲間では一番小さいサギなので小鷺(こさぎ)と呼ばれています。



写真1 コサギ

全長55～65cmで足指が黄色く、夏羽では後頭から2本の長い冠羽があり、背に先がカーブした飾り羽があるのが特徴です。コサギは他のサギと違い、活発に動いて魚などを捕えます。また、足を小刻みに震わせて、驚いて飛び出した魚などを捕えます。サギの仲間では一番多く生息しており、川や池、海岸などで普通に見られます。

コサギは年間を通して見ることができますが、一部は夏鳥として渡来します。越冬地は主に東南アジア方面で、毎年、春と秋に渡りを行っています。

## ■ チュウサギ

チュウサギ（写真2）は「シラサギ」の仲間では中位の大きさなので中鷺（ちゅうさぎ）



写真2 チュウサギ

と呼ばれています。全長65～72cmで夏は嘴（くちばし）が黒色で、背から飾り羽が見られます。ほとんどのチュウサギは夏鳥として渡来しますが、一部、越冬する個体があります。3～40年前までは、チュウサギは非常に多く飛来していましたが、最近では、個体数が激減してしまいました。

チュウサギの嘴は夏は黒色ですが、冬の嘴は黄色に変わります。餌として魚も捕えます

が、カエルやバッタなども捕えて食べています。

## ■ ダイサギ

ダイサギ（写真3）は「シラサギ」の仲間では一番大きいので大鷺（だいさぎ）と呼ば



写真3 ダイサギ

れ、全長85～102cmもある大型の鳥です。チュウサギと同じように夏は嘴が黒くなり、冬は黄色になります。越冬個体も多く生息しており、川や海岸などで見ることができます。ダイサギはコサギと違い、魚を捕える時はじっと近づいてくるのを待っており、魚が近づいてくると一瞬の早業で魚を捕えます。そして魚を飲み込む時は必ず頭から飲み込みます。これは、尾っぽから飲み込むと背びれな

どが喉（のど）に引っ掛かり飲み込めないためです。

## ■ サギのコロニー（集団繁殖地）

サギの仲間の多くは集団で繁殖することが知られています。これをコロニー（集団繁殖地）と呼んでいますが、コロニーを形成することは、タカなどの外敵を早く発見するためだといわれています。コロニーではコサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ、アマサギが混在して繁殖をしています。また、ササゴイは単独でコロニーを形成します。姫路市内では、飾磨区中島や手柄山東斜面などにサギのコロニーがあります。

川や海岸に行くと餌を捕っているサギの仲間が見られますので、コサギやチュウサギ、ダイサギの違いを双眼鏡などでゆっくりと観察をしてみてください。餌の捕獲方法を観察するのも楽しいものです。